

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和5年8月24日（木） 15時00分～

〈開催場所〉

宇治市役所8階 大会議室

〈出席者〉

➤ 委員

長積 仁（会長）	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
佐野 恵理子（会長職務代理）	（一財）宇治市スポーツ協会 副会長
石井 敬己	（株）京都パープルサンガ ホームタウン推進課長
佐藤 朋子	宇治市スポーツ少年団 副本部長
多田 重光	（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
西山 正一	宇治市体育振興会連合会 副会長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
森 美奈子	摂南大学 農学部食品栄養学科 講師

計8名

➤ 事務局

脇坂 英昭	産業観光部 部長
前田 聖子	産業観光部 副部長
岡部 均	産業観光部 文化スポーツ課 課長
萬谷 智	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 係長
伊藤 大志	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
菱木智優聖	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
和田 輝里	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事
吉高 史彩	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事

計8名

〈会議内容〉

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 令和5年度スポーツ推進事業の進捗状況について

（事務局説明）

宇治市全体として取り組む第6次総合計画に、「重点施策」のうちのひとつ、「みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会」が位置付けられている。その中のスポーツに関する内容として、「つなげる・ひろがるスポーツ振興事業」、「スポーツによる多世代交流

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

の促進や運動機会の創出」が令和5年度の新規事業として、また、拡充事業として、「フライングディスクのまち宇治推進事業」に係る予算が計上されている。

第2期宇治市スポーツ推進計画では基本理念として、「スポーツで育む健康と地域の絆 FUN SPORTS PLUS」を掲げ、その中で3つの推進の方向性、「たのしむ」、「つなげる」、「ひろがる」を基礎に各事業を展開しており、令和5年度で主に実施した事業として、既存の事業である「ニュースポーツひろば」において、健康長寿部事業、健康づくり・食育アライアンスの加盟団体の事業との連携として、身体の使い方をトレーニングする「体幹かけっこ教室」、障害者スポーツ大会を従前よりも規模を縮小した形で、4年ぶりの開催となった「障害者スポーツフェスタ2023」、2027年（令和9年）開催予定の「ワールドマスターズゲームズ2027関西」に向け様々なフライングディスク普及啓発事業の継続などがあげられる。

今後は、「みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会」へのスポーツによるアプローチとして、「2023Uji こどもスポーツフェスタ」、「多世代スポーツ交流フェスティバル ―スポーツに親しめる日―」、「市民スポーツまつり・太陽が丘スポーツカーニバル」、「宇部市・宇治市スポーツ交流大会」などを実施予定としている。

また、スポーツと他分野事業との連携として「ながら防犯パトロール」、夏の高校野球、京都大会決勝において、当日に、市役所1階ロビーにて「来庁者みんなで観戦できるクールスポット」の設置などを実施した。

(委員)

ニュースポーツひろばでの体幹かけっこ教室について、事業者の方から、「今後も継続して実施する意向で、次回の申込みが既に50名に達した」と伺っている。申込者が多く、体幹を鍛えることに興味を持っている保護者の方が多いと感じた。

(会長)

今後も継続して参加していただくために、事業を拡げられる可能性があると感じる。

(委員)

宇治市健康づくり食育・アライアンスにおいても、健康という枠組みの中でスポーツ関連の事業を行っている。健康という枠組みにスポーツや食育など、付加価値を加えていけば、継続して参加していただけるのではないかと。

(委員)

ニュースポーツひろばでは保育ルームを設置されており、子育て世代に対しても積極的に対応されていることから、宇治市スポーツ推進計画に沿って事業が行われているということが分かった。

また、「ながらスポーツ」を実施したとのことで、前回の審議会での意見が取り入れられていると感じ、事務局の方に感謝する。

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

自身が携わる水泳関連の事業において水難事故が多発しており、水泳教室を実施するに当たっての課題となっている。これまで、救命救急においては心肺蘇生法のみを訓練しているが、様々な救助方法を学ぶ必要があると感じた。

西宇治体育館、黄檗体育館において、多くの水泳教室を実施しており、宇治市は水泳人口が多いと感じる。近隣市町の小学校では水泳事業を民間委託にしていく動きがあり、宇治市においても、プールの維持管理の方法を考え、民間委託を検討されたい。

2つの市営プールがあるうちの一つ、黄檗市民プールでは、建設時に屋根を付けるための柱を立てたようだが、その後の工事がなされていないため、その先を進めていただき、子どもたちが年間を通して水泳の授業ができるようにしていただきたい。

(会長)

社会課題に対する未対応の部分について検討し、予算要求をすることが重要。既存事業に付加価値を加えるだけでも内容が変わる。また、事業名に反映されることで既存事業の発展にも繋がる。

(委員)

健康経営について取り組んでおり、商工会議所の会員事業所を対象に、体力テスト等を実施することにより、現在の自分の健康状態を把握し、それがスポーツに親しむきっかけとなることを目指している。宇治市と協力しながら事業を進めたい。

(委員)

企業が押しつけるのではなく、社員同士で健康増進の取組について考えると成功する事例がある。スポーツを楽しみながら、健康を目指す視点で考えると、魅力的な発想が生まれる。

(事務局)

宇治市スポーツまつり・スポーツカーニバルにおいて体力テストを実施しており、企業に参加いただきたい。市役所内においても、共済事業の一環でウォーキングイベントを実施している。

(会長)

企業に直接出向いて事業を実施し、専門の民間事業者や研究者をつなぐことも考えることができる。例えば、宇治市が実施しているスポーツ振興事業及びウェルビーイング事業をパッケージにすることや情報提供を行うと、企業や市民に対するウェルビーイングの浸透や、「ひろがる」の部分にも繋がる。

(委員)

京都市マラソンでは既に募集が始まっている。最近、京都市マラソンの人気が出ている要因として、観光地の真ん中を走るということがあり、海外の方のエントリーも多い。

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

宇治市の事業で、市外からの参加者を集うものでは、宇治川マラソン大会があげられる。元マラソン選手を含むスポーツ関係の宇治市観光大使、京都サングの選手など、有名な方や憧れの人と一緒に大会を楽しむことを定例化することによりリピーターに繋がる。また、参加料を徴収することで、大会の利益を創出し、その収益で経費を賄うといった「稼ぐスポーツ」を検討してはどうか。

(会長)

スポーツ部局が産業観光部に所属していることから、ぜひ稼ぐことを考えたい。

行政が稼ぐことは私腹を肥やすことではなく、拡大再生産につながる。宇治市の観光地を走ることができれば、フルマラソンじゃなくても十分に利益を得る可能性がある。

宇部市・宇治市のスポーツ交流大会においても、スポーツのまちづくりにおける交流を図っていただきたい。

(委員)

宇治市の課題は滞在してもらうことである。スポーツや観光などを組み合わせ、滞在してもらえる仕掛けづくりを目指す。

(委員)

文化スポーツ課では、各地域体育振興会のイベントを宇治市のホームページに載せている。ホームページを見る人が増えてきているので、続けてもらうことで効果が出てくる。

宇治市体育振興会では、所属する団体が脱退する事案が発生している。新型コロナウイルス感染症の影響で、町内会組織が3年間活動できなかったことにより、つながりがなくなってきた。

町内会運営において、メリット・デメリットを考える人が増えた。地域は経営ではなく交流である。時代が変わってきたと感じる。町内会組織がうまくいなくなることはそれに附属している各種団体も衰退する。

スポーツ少年団も、二つの小学校で一つのチームしか作れない。子どもが少ないこともあると思うが、活動が少なくなっていると感じる。まずは町内会組織をしっかり固め、町内会活動をもっと盛んにするようなことを考えていくべき。

(会長)

とある高齢化・担手不足が課題の自治会では、中学生が役員に入っているところがある。その町が好きで、その町を自分たちで良くしていきたいという、若い人たちの発想を年配の方々が受け入れるという形で、自治会の改革が行われている。

衰退を待つのではなく、その町を良くしたいという発想を持った若い人たちを巻き込んでいくことは、自治会の発展につながる。

町に関わることのメリット・デメリットについて、メリットはそこに関わる人たちが生み出すものである。したがって、行政や公共施設が手を打つべきことは、デメリットになりそうなところをどのように危機管理できるかが重要。メリット・デメリットはそれぞれが判断

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

し、それを自分のメリットと考えない場合は、関わらないという選択肢もある。したがって、取捨選択をしてもらったうえで、関わりたいと思ってもらえるような理由を作る必要がある。

都市の不健康度が進むと当然、医療費が増加する。それは企業も同じで、健康保険、社会保険を使わないようにすることが、企業の経営を良くしようという、健康経営の発想になる。宇治市においても、積極的に健康増進を図ることによって、健康経営のように自治体の経営そのものもより良くするという発想が伴うと、「ひろがる」につながってくる。

Jリーグは産業、スポーツ振興、観光など様々な分野がハイブリッドされている形態であると思う。プロスポーツというハイブリッド産業が、自治体を巻き込んで、どのような頻度で事業を行っているのか知りたい。

京都市の一つの政策の柱にはスポーツリエゾンというものがある。スポーツリエゾンというのは、民間企業や京都サンガなど、様々な人が繋がっていくような、触媒を起こしていくということで、様々な人や団体とつながっていくことによりどのような可能性があるのかも踏まえながらご意見をいただきたい。

(委員)

地域とスポーツ振興というのはすごく相性が良いと思っている。自分自身が自治会と関わっている際にも、スポーツという共通体験や感動を共有することで、地域が近くなるということを実体験として感じている。

京都府内の地域と関わる中で、スポーツだけではなく、健康など様々な経験をすることで自治会や地域のつながりが強くなっていくことを実感している。それが皆さんが言っていたウェルビーイングや健康増進につながっていくと思う。

先ほども何かと何かを組み合わせるといような話があったが、例えば一つの取り組みとして、自治会、町内会でスタジアムまで歩いて行くという事業を実施されており、試合を観に行くだけではなく、スタジアムまで歩くということを組み合わせると参加者が増えてきたといようなことがある。一つの目標に対して付加価値を加えるということは、いろいろなところに拡がっていくと実感している。

プロスポーツをやっている以上は、憧れる存在として認識されるというところを目指しているし、京都サンガを名乗っている以上は京都を好きになってもらうという思いを持ちながら活動している。今回、サッカー女子ワールドカップにおいて宇治市出身の林選手が出場されていたが、そういった方々を見ることによって、自分の町、宇治市出身の方が頑張っているということを思うことで、自分の町を誇りに思ってもらいたいということが大切。

この間、京都サンガの方でも宇治市ホームタウンデーを実施し、槇島町、小倉町の子どもたちに、京都サンガの試合に来てもらい試合前にピッチを歩いていただいたり、宇治土産品組合からもブース出していたりなど、宇治市をPRしていただいた。子どもたちもすごく目を輝かせて歩いていただき、宇治市を代表してとの思いを持っていただいたと感じたので、そういったところでも、地元プロスポーツチームとして子どもたちに誇りに思ってもらえるような存在を目指しながら活動し、また様々なところとつながりを持ちたいと考えている。

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

宇治市と行った事業の中で、その先につながるような、継続的な事業について考えられていることはあるか。

(委員)

毎年少しずつつながりを持たせていただいているが、そういった子どもたちに対してまたもう1回アプローチするという事は考えられていなかったもので、プラスで何かをやっていくとさらに経験が強くなると思う。

(会長)

啓発をして、関わった人たちの関わった続きを評価してもらいたい。

楽しみのその先の続きをプロデュースする、関わった人の関りを次に発展させるようなことを事業化できないかということが、啓発にとどまることがない仕掛けにつながる。

地域のコミュニティが厳しくなっていく中で、スポーツ少年団を維持できなくなっていくことは、学校の部活動によく似ているところがある。宇治市は人口も多いなかで、維持できないようなことに対して考えなければならない。

部活動の地域移行という問題で、地域移行ではなくて、地域に新しいスポーツや文化、健康増進をするための一気通貫できるような仕組みをつくることが重要。

立ちいかなくなっていくところに新しい仕組を再創造するというようなことに対して、「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」につながるような仕掛けをしていけば社会課題の解決につながる。この産業観光部にある文化スポーツ課ができるスポーツ推進計画だと思うので、そのあたりを意識しながら、予算折衝していただきたい。

(委員)

この事業計画を見て感心した。この人口規模でこれだけ多くの事業を実際に行っているところはあるのか。

(事務局)

特に連携という部分を意識し、健康や観光など、スポーツの部門だけではなく様々な形で事業を進めている。

(委員)

宇治市に転入すれば、健康長寿になれるということをもっとアピールしていくと、人口増加につながるのではないか。

例えば、和泉市ではだんじりを実施しているが、だんじりに対する関心の有無に関わらず、引っ越ししてくる方がいらっしゃる。すると、子どもの友達がだんじりに行くようになれば、子ども自身もだんじりに参加したいという気持ちが湧いてくる。だんじりに参加するために

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

は町内会に加入する必要があるとあり、親が子どものために加入する。親の気持ちの変化を待つより、子どもたちを巻き込んでいったほうが良いと思う。

(委員)

宇治市健康づくり・食育アライアンスはついに100団体になった。宇治市の団体が、健康に対する潜在意識が高いことがわかる。岡山県の奈義町では、子育て支援に力を入れており、人口が増えている。

宇治市に転入したら、スポーツ、食育、健康といった楽しく健康長寿になれるという実績をアピールしていくべき。

(会長)

それは町の魅力である。その地にいる人たちがそこに住んで良かったと思うことは、当然重要。

(委員)

市の事業のほかにも体育館独自でもバドミントン教室、親子体操教室などを実施しているため、事業が多い。

(会長)

「たのしむ」だけではなく、それをどうやってつなげてひろげていくかを仕掛ける。つなげてひろげるということに対する成果指標において、目標設定だけではなく、何をしたら、事業成果として「ひろがる」につながっているのかということの評価して表現してもらいたい。

(委員)

宇治市のホームページの閲覧数を調べてみるのも面白いと思う。

スポーツ事業の広報について力を入れているように思うが、何か戦略はあるのか。

(事務局)

この計画を契機に様々な事業を実施していく中で、その事業を発信することによって、発信も一つの成果指標になるため、発信するように努めている。

(委員)

情報発信を行い、市民に宇治市が健康長寿日本一を目指しているということを自覚してもらうことは重要。

(会長)

その事業に初めて参加するのか、継続して参加するのかデータを取っていただきたい。

民間団体が自分たちでプラットフォームをつくり、そのバナーを京都市のホームページに掲載することで、京都市の様々な団体の情報をまとめて得ることができるような情報の一元

令和5年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

化がスポーツリエゾンというところではできないか京都市で検討している。バナーを活用して情報発信をすることで、観光や産業、スポーツなど、様々な情報をまとめて得ることができるような情報の一元を考えると、「ひろがる」につながる。

予算との兼ね合いで、できることできないことがあるかもしれないが、既存の事業を見直していくことに対しても、様々な意見が出たと思うので、ぜひ事業の予算折衝をしていただきたい。

スポーツで収益を上げていくことで、市のまちづくりや、拡大再生産ができるようなことをしていきたい。

4. 閉会

- 事務局挨拶